のり面・擁壁の新設・廃止・変更等の事務手続きマニュアル

平成２９年５月改訂版

名古屋市緑政土木局 路政部道路維持課

はじめに

本マニュアルは、各土木事務所が管理する道路施設（道路照明、道路標識、道路反射鏡、横断歩道橋、のり面、擁壁、カルバート、道路情報提供装置）に関して、工事・点検等に関わる全ての方々、すなわち各事業者並びに本庁・土木事務所の職員を対象とするものです。

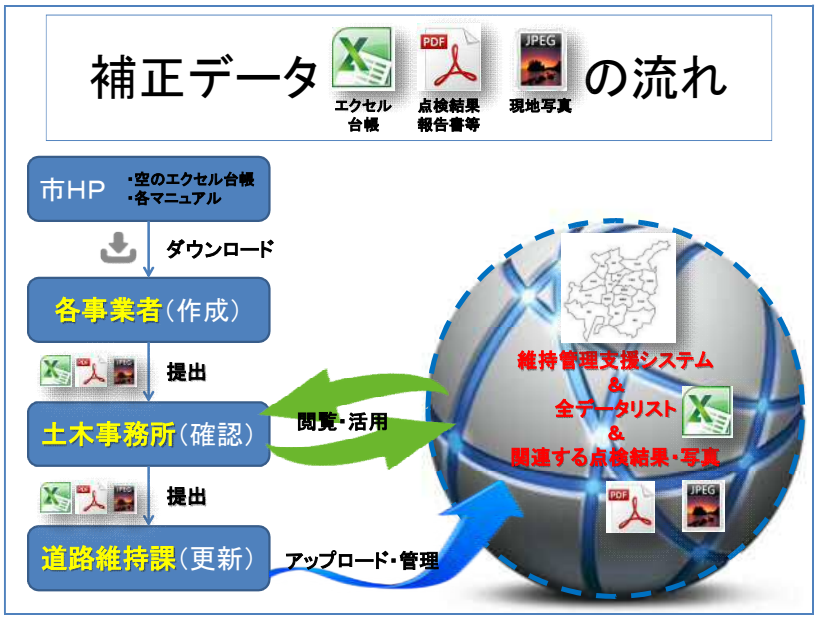
平成２６年度から電子台帳化された現在の台帳管理システムは、台帳管理を一元化し、道路施設管理に大いに活用していくものとしてスタートしましたが、その後の法定点検の制度化に対応するために、この度、マニュアルの改訂を行うこととなりました。

台帳管理にあたっては、各事業者は設置・修繕工事、各点検業務委託、事故復旧・承認工事、単価契約工事等の作業完了後に、また整理組合や開発行為等の引継時に土木事務所に電子台帳の補正データを提出します。

土木事務所は提出された補正データや市職員の直営作業によるデータの内容を確認後、それらを道路維持課に提出することで電子台帳が補正されます。併せて、同様の流れで補正データに関連する各種調書、詳細な点検結果や写真データも電子データとして道路維持課に提出します。

道路維持課では、補正された電子台帳を基に維持管理支援システムにデータを反映させ、関連する電子データを一元的に保管し、台帳管理を行います。

台帳管理は、あくまでも日々の各土木事務所で取り扱う道路施設１基１基の管理がベースにあり、それらが道路維持課へ提出されることで成り立っています。本マニュアルは台帳管理の事務処理手続きを円滑に行うために、各事業者並びに本庁・土木事務所の職員が実施する各ケースの補正手続についてとりまとめましたので、事務処理の参考に活用していただきたいと思います。



「言葉の定義」

1．**「道路施設」**とは　　：各土木事務所が管理する道路照明、道路標識、道路反射鏡、横断歩道橋、のり面、擁壁、カルバート、道路情報提供装置のこと。

2．**「新設」**とは※1　　：道路管理者が発注する工事により、既存の道路施設が無い所に、新しく道路施設を設置すること。

3．**「引継」**とは※1　　：整理組合や開発行為等により、新しく道路施設を設置し、それを道路管理者が引継ぐこと。

4．**「更新」**とは※1、※4　　：既存の道路施設を“全て撤去”した後に、同じ箇所に新しくそれと同等の道路施設を設置すること。並行して“撤去”に係る「廃止」も忘れずに行う。

5．**「廃止」**とは※2、※4　　：既存の道路施設を“全て撤去”すること。

6．**「変更（修繕）」**とは※3　：既存の道路施設の一部を取り替えたり、補修・修繕すること。

7．**「変更（移設）」**とは※3　：既存の道路施設本体を、そのまま異なる箇所に移して設置すること。

8．**「変更（錯誤）」**とは※3　：既存の道路施設と電子台帳の内容に相違（設置箇所の間違い、各種記録の間違い等）が発見された場合に電子台帳を修正すること。

9．**「変更（点検）」**とは※3：既存の道路施設の点検を実施し、その結果を電子台帳に記録すること。

【備考】

※1 上記２．～４．は固有ＩＤを道路維持課にて付与します。

※2 上記５．では固有ＩＤを廃止し、今後の使用も禁止します。

※3 上記６．～９．は既存の固有ＩＤに対して、データ内容の変更をします。

※4 上記４．「更新」に際しては、５．「廃止」を並行して実施します。

１．補正区分毎の補正データの提出について

下記の表を参考に必要なシステム補正資料を土木事務所担当者（監督員）へ提出して下さい。土木事務所担当者は、内容を確認の上、道路維持課担当者へ提出して下さい。

提出データのファイル名、ファイル形式、まとめ方はＰ１０～１１を参照して下さい。

表－1 システム補正資料

補正区分		エクセル 台帳	調査記録表等 ※1	竣工図 （構造図）	写真	位置図
新設・引継・更新		○	△※2	○	○	○
廃止		○	－	－	－	－
変更	修繕	○	－	○	△※3	△※3
	錯誤	○	－	－	△※3	△※3
	点検	○	○	－	―	－

※1 調査記録表等の点検による調書については、表－2を参照し、該当するものを提出すること。

※2 引継の場合で点検が既に行われている場合については提出。

※3 土木事務所担当者（監督員）から指示がある場合については提出。

表－2 提出する調査記録表等の分類

点検の種類	点検要領の種類	提出する調査記録表等の調書の種類 （まとめて1つのエクセルファイルとする）
定期点検	道路のり面工・土工構造物の調査要領（案）	調査記録表、現況写真
道路防災点検	点検要領（平成18年9月）	箇所別記録表、安定度調査表、被災履歴記録表、現状記録写真
カルテ点検	防災カルテ作成・運営要領 （平成8年12月）	防災カルテ様式

２．エクセル台帳

エクセル台帳とは、諸元データをはじめ、位置（座標）データ、修繕データ、点検データなどがリスト項目となったエクセルで作成された電子台帳ファイルです。

エクセル台帳には、必須入力項目と補正するデータ項目のみを入力して土木事務所担当者（監督員）に提出します。（すべての項目を入力する必要はありません。）

補正区分によって記入する項目が異なりますので、P.１２～１３を参照してください。

３．エクセル台帳の記載方法

Ａ欄：補正区分

「新設」、「引継」、「更新」、「修繕」（改築を含む）、「廃止」、「錯誤」、「点検」のうち該当するものから選択する。更新の場合は「廃止」＋「更新」として補正データの提出が必要となります。

Ｂ欄：年月日

補正区分ごとに、表－３を参考に記入すべき日付を西暦で記入する。

例）2014/4/1　×平成 26 年 4 月 1 日　×20140401　×260401　×2014.4.1　×H26.4.1

表－３ 補正区分毎の記入すべき日付一覧

補正区分	記入すべき日付
「新設」	のり面・擁壁の設置工事が完了した日付（I欄と同じ日付）
「引継」	のり面・擁壁の引継を受けた日付
「更新」	のり面・擁壁の更新工事が完了した日付（I欄と同じ日付）
「修繕」	のり面・擁壁の修繕、塗装、改築等の工事が完了した日付（〇欄と同じ日付）
「廃止」	のり面・擁壁の撤去工事が完了した日付（AN欄と同じ日付）
「錯誤」	のり面・擁壁の錯誤が判明した日付
「点検」	のり面・擁壁の点検を実施した日付（AE欄と同じ日付）

Ｃ欄：固有ＩＤ

固有ＩＤ「のり面・擁壁のＮ＋２桁の区番号＋５桁の番号」を記入する。

例）N0100001→千種区の０００００１番と判別する。

Ｄ欄：道路防災点検施設管理番号

道路防災点検施設管理番号を記入する。

Ｅ欄：土木事務所

擁壁等を管理する土木事務所名を選択する。

Ｆ欄：施設種別

「切土のり面」「盛土のり面」「グラウンドアンカー工」「擁壁工」「落石防護工」「その他の斜面安定工」のうち、該当するものから選択する。

Ｇ欄：施設種別詳細

施設種別のさらに詳細な種別を記入する。

（例　のり面緑化工、石張工、ブロック張工、コンクリート張工、モルタル吹付工、コンクリート吹付工、プレキャストコンクリート枠工、現場打ちコンクリート枠工、吹付枠工、編柵工、じゃかご工、重力式擁壁、もたれ式擁壁、ブロック積擁壁、大型ブロック積擁壁、片持ばり式擁壁、Ｕ型擁壁、井けた組擁壁、補強土壁など）

Ｈ欄：施設延長

施設の延長（ｍ）を少数第一位まで記入する。

Ｉ欄：完成年月

施設の完成した年月を記入する。完成年月が不明の場合は「不明」と記入する。

例）2014/01　×昭和６３年３月　×２０１４年１月

Ｊ欄：管理者

のり面・擁壁の管理者が道路管理者の場合は「道路管理者」、道路管理者以外の場合は「その他」、不明の場合は「不明」を選択する。なお、未調査の場合は「未調査」を選択する。

Ｋ欄：道路種別

「高速自動車道」、「一般国道（指定区間）」、「一般国道（指定区間外）」、「主要県道」、「一般県道」、「主要市道」、「一般市道（１級）」、「一般市道（２級）」、「一般市道（その他）」、「自転車歩行者専用道」、「未認定道路（公有道路）」、「その他」のうち該当するものから選択する。交差点等で複数路線にまたがる場合は上位路線を選択する。

Ｌ欄：路線名

認定路線名を記入する。認定されていない路線の場合は「未認定」と記入する。

Ｍ欄：道路番号

道路番号を記入する。（認定道路の場合）

Ｎ欄：幅員

設置位置での道路の幅員（ｍ）を小数点第一位まで記入する。

Ｏ欄：緊急輸送道路

緊急輸送道路の区分に応じて、「１次」、「２次」、「指定なし」のうち該当するものから選択する。

Ｐ欄：所在地

所在地を町名まで記入する。複数ある場合は半角コンマ（,）で区切って記入する。

Ｑ欄：最大高さ

擁壁等の最大の高さ（ｍ）を小数点第一位まで記入する。

Ｒ欄：最大勾配

擁壁等の最大の勾配を「1：○○」の形式で記入する。

（比率は高さを１として○○に横の寸法を半角英数字で小数点第一位まで記入する。）

Ｓ欄：最小高さ

擁壁等の最小の高さ（ｍ）を記入する。

Ｔ欄：最小勾配

擁壁等の最小の勾配を「1：○○」の形式で記入する。

（比率は高さを１として○○に横の寸法を半角英数字で小数点第一位まで記入する。）

Ｕ欄：添架物件

添架されているものを具体的にすべて記入する。添架されているものが本市管理の道路照明など固有ＩＤを有しているものは、固有ＩＤを記入する。ここで、本マニュアルが意味する「固有ＩＤ」とは、本市が管理する表－４に示す構造物に付与されたものとする。添架物件がない場合は「なし」と記入する。また、添架されているものが複数ある場合には半角,（コンマ）で区切って記入し、固有ＩＤのあるものを優先して記入すること。

（例：L0101000,S0102000,車両用信号機,歩行者用信号機,規制標識　等）

表－４　固有IDの例

構造物	固有IDの例
道路標識	S0200123
道路照明	L0500567
道路反射鏡	m0800032
歩道橋	H1102
道路情報提供装置	D1400234
カルバート	C0100200
のり面・擁壁	N1600252

Ｖ欄：直上の土地区分

擁壁等直上の土地区分を「民有地（建築物）」、「民有地（建築物なし）」、「道路」、「道路以外の市有地」、「その他公共用地」のうち該当するものを記入する。複数ある場合には半角の,（コンマ）で区切って記入すること。

Ｗ欄：直下の土地区分

擁壁等直下の土地区分を「民有地（建築物）」、「民有地（建築物なし）」、「道路」、「道路以外の市有地」、「その他公共用地」のうち該当するものを記入する。複数ある場合には半角の,（コンマ）で区切って記入すること。

Ｘ欄、Ｙ欄：起点緯度、起点経度

起点（道路認定の起点側）の中心部の位置で計測した緯度、経度を世界測地系の DMS 形式（dd° mm′ ss.s″）で、「0.1」単位まで記入する。

例）35° 10′ 48.8″ ×35 度 10 分 48.8 秒　×35.10488　×日本測地系

Ｚ欄、ＡＡ欄：終点緯度、終点経度

終点（道路認定の終点側）の中心部の位置で計測した緯度、経度を世界測地系の DMS 形式（dd° mm′ ss.s″）で、「0.1」単位まで記入する。

例）35° 10′ 48.8″ ×35 度 10 分 48.8 秒　×35.10488　×日本測地系

ＡＢ欄：上下線の区別

「上り線」、「下り線」のうち、該当するものを選択する。なお、上り線とは認定の終点から起点へ向かって左側をいい、下り線は認定の終点から起点へ向かって右側をいう。

ＡＣ欄：事前通行規制の有無

強雨等により事前通行規制を行う箇所の有無を記入する。「有」、「無」のうち、該当するものを選択する。

ＡＤ欄：災害履歴の有無

災害履歴の有無を「有」、「無」のうち、該当するものを選択する。

ＡＥ欄：点検年月日

点検の実施年月日を記入する。複数日に跨って点検をした場合には点検を完了した日付を記入する。調査記録表等（Ｐ１４を参照）を作成した場合は、調査記録表等に記載した点検の実施年月日を西暦で記入する。

例）2014/4/1　×平成 26 年 4 月 1 日　×20140401　×260401　×2014.4.1　×H26.4.1

ＡＦ欄：業務件名

点検業務等の件名を記入する。本市職員による点検の場合は「直営業務」と記入する。

ＡＧ欄：点検者名

点検業務の受注者名（会社名）を記入する。本市職員による点検の場合は「職員」と記入する。

ＡＨ欄：点検①種別

点検①種別点検種別について表－5に従い該当するものを選択する。道路防災点検やカルテ点検をした場合には点検②に記入すること。（道路防災点検やカルテ点検のみの点検でも②に記入すること。）

表－5　点検種別の例

点検種別	定　　義
定期点検	5年又は10年毎に定期的に行う点検
通常点検	通常点検マニュアルに基づく点検又は道路パトロール等で行う点検
初期点検	設置後1年以内に行う点検
緊急点検	緊急に行う点検
詳細点検	定期点検等により異常が見つかり、さらに詳細な点検を実施する必要がある場合に行う点検

ＡＩ欄：点検①要領

点検①で使用した要領等を記入する。

ＡＪ欄：点検①健全度区分

点検①又は修繕等に基づいた健全度区分を表－６に従い該当するものを選択する。

表－6　健全度区分と定義

健全度区分	定　　義
Ⅰ　健　　全	構造物の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ　予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防の観点から措置を講ずることが望ましい状態
Ⅲ　早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ　緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

参考資料:トンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示

（平成26年国土交通省告示第426号）

ＡＫ欄：点検②種別

道路防災点検を実施したものは「道路防災点検」、カルテ点検を実施したものは「カルテ点検」と記入する。

ＡＬ欄：点検②要領

点検②で使用した要領等を記入する。

例：点検要領（平成１８年９月）等

ＡＭ欄：点検②健全度区分

点検②又は修繕等に基づいた結果を「カルテ対応」、「要対策」、「対策不要」のうち、該当するものを記入する。

ＡＮ欄：工事年月日

設置、修繕工事等を完了した日付を記入する。

例）2014/4/1　×平成 26 年 4 月 1 日　×20140401　×260401　×2014.4.1　×H26.4.1

ＡＯ欄：工事件名

管理者発注工事の場合は、設置工事又は修繕工事等の件名を記入し、本市職員が実施した工事の場合は「直営工事」、管理者工事以外の場合は「承認工事」、「占用工事」、「区画整理」、「開発行為」、「河川改修工事」、「橋梁工事」、「その他」（寄附等）のうち、該当するものを記入する。

ＡＰ欄：施工者名

修繕工事等の施工者名（会社名）を記入する。ＡＯ欄で「直営工事」と記入の場合は「職員」と記入する。

ＡＱ欄：工事内容

修繕内容を記入する。複数ある場合には半角の,（コンマ）で区切って記入すること。

（例：新設、断面修復,クラック注入等 ）

ＡＲ欄：工事費

設置、修繕、改築、撤去費用（千円）を千円まるめで記入する。

ＡＳ欄：廃止年月日

撤去工事が完了した日付を記入すること。

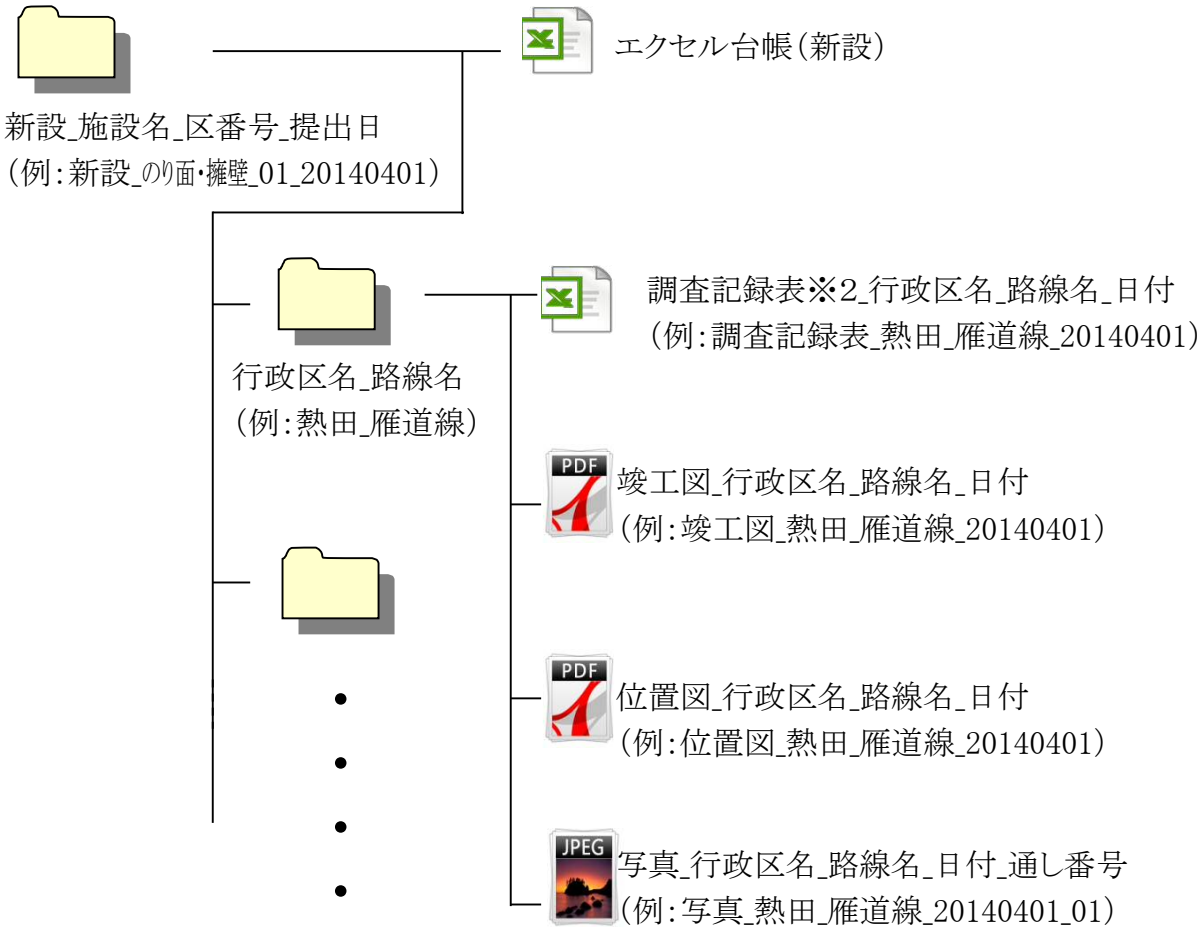
例）2014/4/1　×平成 26 年 4 月 1 日　×20140401　×260401　×2014.4.1　×H26.4.1

ＡＴ欄～ＡＶ欄：備考１～備考３

設置者調査結果を記録する場合など、必要に応じて記入する。

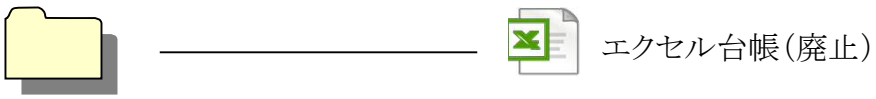
４．提出データのファイル名、フォルダ構成等について

（１）新設・引継・更新の場合（固有 ID が無いケース）



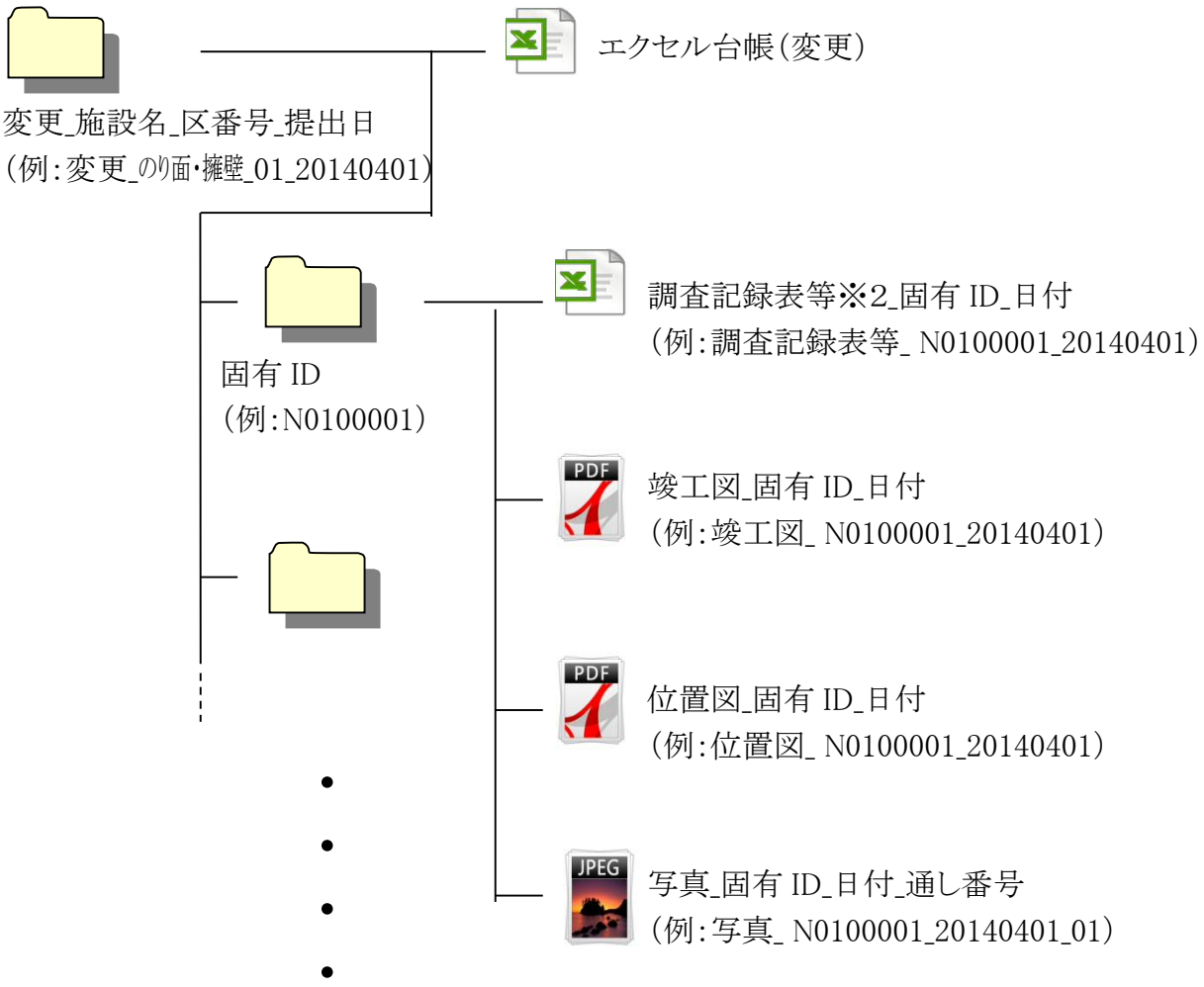
※　各ファイルの項目は必ず「_」（アンダーバー）で区切ること。
　日付は yyyymmdd 形式（西暦で８桁表示）とし、エクセル台帳「B 欄」と合わせること。
　写真が複数ある場合にはファイル名の最後にファイル名+_通し番号を振ること。
※２　調査記録表の箇所は表－２に従い提出する記録表等の種類により決定すること。

（２）廃止の場合（固有 ID が有るケース）



廃止_施設名_区番号_提出日
（例：廃止_のり面・擁壁_01_20140401）

（３）修繕・移設・錯誤・点検の場合（固有 ID が有るケース）



※各ファイルの項目は必ず「_」（アンダーバー）で区切ること。
　日付は yyyymmdd 形式（西暦で８桁表示）とし、エクセル台帳「B 欄」と合わせること。
　写真が複数ある場合にはファイル名の最後にファイル名+_通し番号を振ること。
※２　調査記録表の箇所は表－２に従い提出する記録表等の種類により決定すること。

５．エクセル台帳の記載項目

入力が必要な項目　　◎必須、○該当する項目があれば必須
△必要に応じて記入（既存データに誤りがある場合や空欄の場合等）
－入力不要（空欄にしておく項目）

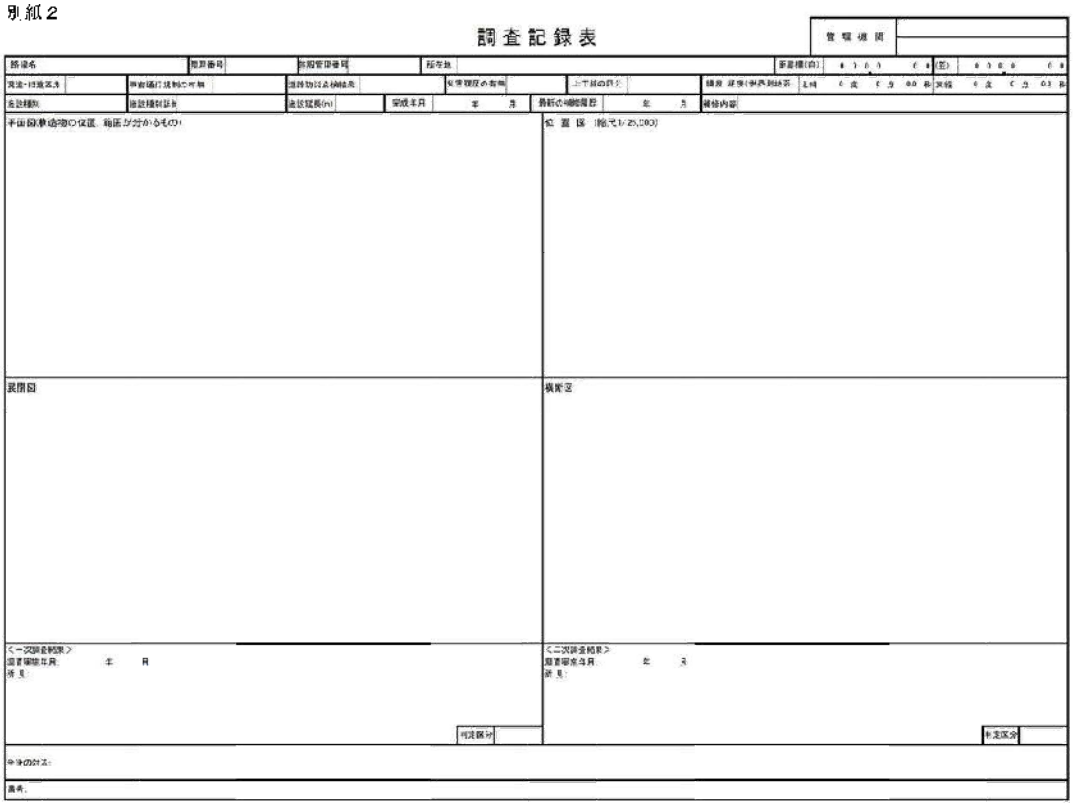
項　目		新設	引継	更新	廃止	変更		
						修繕	錯誤	点検
A	補正区分	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B	年月日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
C	固有 ID	－	－	－	◎	◎	◎	◎
D	道路防災点検施設管理番号	－	－	－	◎	◎	◎	◎
E	土木事務所	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F	施設種別	◎	◎	◎	－	△	△	△
G	施設種別詳細	◎	◎	◎	－	△	△	△
H	施設延長	◎	◎	◎	－	△	△	△
I	完成年月	◎	◎	◎	－	△	△	△
J	管理者	◎	◎	◎	－	△	△	△
K	道路種別	◎	◎	◎	－	△	△	△
L	路線名	◎	◎	◎	－	△	△	△
M	道路番号	◎	◎	◎	－	△	△	△
N	幅員	◎	◎	◎	－	△	△	△
O	緊急輸送道路	◎	◎	◎	－	△	△	△
P	所在地	◎	◎	◎	－	△	△	△
Q	最大高さ	◎	◎	◎	－	△	△	△
R	最大勾配	◎	◎	◎	－	△	△	△
S	最小高さ	◎	◎	◎	－	△	△	△
T	最小勾配	◎	◎	◎	－	△	△	△
U	添架物件	◎	◎	◎	－	△	△	△
V	直上の土地区分	◎	◎	◎	－	△	△	△
W	直下の土地区分	◎	◎	◎	－	△	△	△
X	起点緯度	◎	◎	◎	－	△	△	△
Y	起点経度	◎	◎	◎	－	△	△	△
Z	終点緯度	◎	◎	◎	－	△	△	△
AA	終点経度	◎	◎	◎	－	△	△	△
AB	上下線の区別	◎	◎	◎	－	△	△	△
AC	事前通行規制の有無	◎	◎	◎	－	△	△	△
AD	災害履歴の有無	◎	◎	◎	－	△	△	△

項 目		新設	引継	更新	廃止	変更		
						修繕	錯誤	点検
AE	点検年月日	－	○	－	－	－	△	◎
AF	業務件名	－	○	－	－	－	△	◎
AG	点検者名	－	○	－	－	－	△	◎
AH	点検①種別	－	○	－	－	－	△	◎
AI	点検①要領	－	○	－	－	－	△	◎
AJ	点検①健全度区分	－	○	－	－	◎	△	◎
AK	点検②種別	－	○	－	－	－	△	◎
AL	点検②要領	－	○	－	－	－	△	◎
AM	点検②健全度区分	－	○	－	－	◎	△	◎
AN	工事年月日	◎	◎	◎	－	◎	△	－
AO	工事件名	◎	○	○	－	◎	△	－
AP	施工者名	◎	○	○	－	◎	△	－
AQ	工事内容	◎	◎	◎	－	◎	－	－
AR	工事費	◎	◎	◎	◎	◎	－	－
AS	廃止年月日	－	－	－	◎	－	－	－
AT	備考1	△	△	△	△	△	△	△
AU	備考2	△	△	△	△	△	△	△
AV	備考3	△	△	△	△	△	△	△

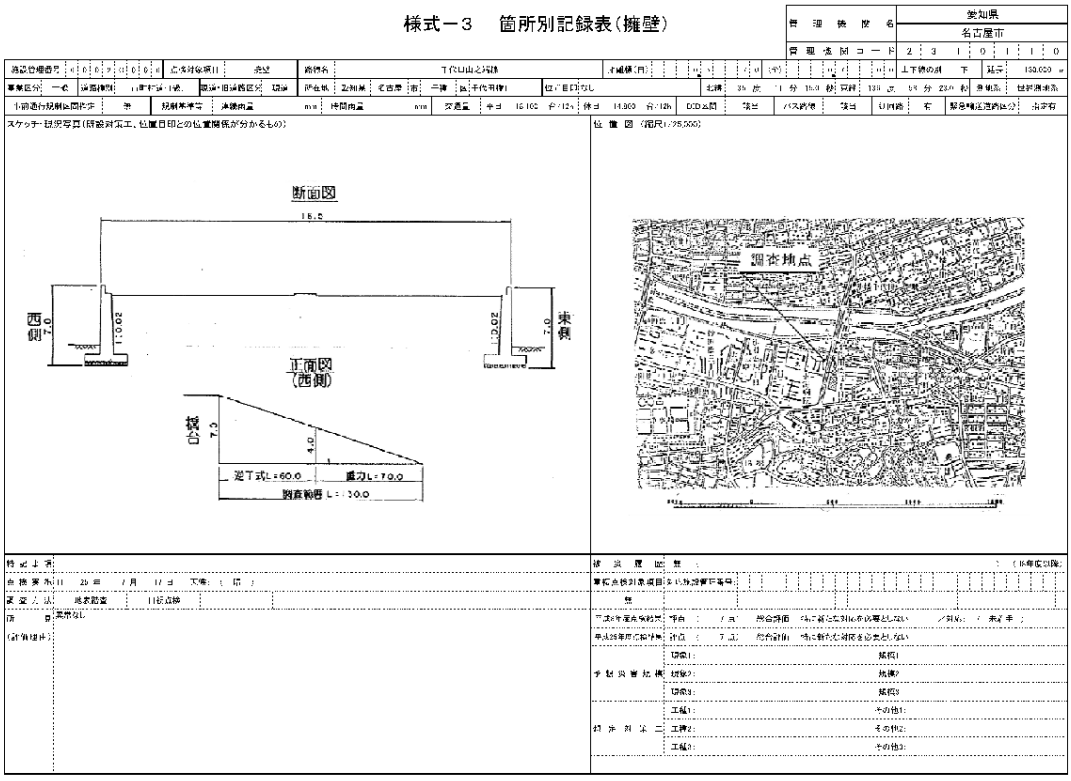
6. 参考資料

（1）調査記録表（参考様式）

別紙２



（2）箇所別記録表（参考様式）



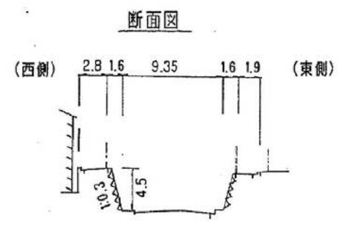
（３）防災カルテ様式（参考様式）

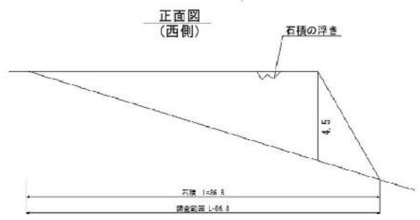
防災カルテ様式Ａ（擁壁）

管理機関名	愛知県 名古屋市
管理機関コード	2 3 1 0 0 2 0

施設管理番号	6 0 0 1 G 0 0 4	点検対象項目	擁壁	路線名	赤坂町南北第2号線	距離標(自)	0 0 0. 1 0 0	(至)	0 0 0. 1 8 5	上下線の別	下	延長	85.000 m		
事業区分	一般	道路種別	市町村道(1級)	現道・旧道路区分	現道	所在地	愛知県 名古屋 市 千種 区 茶屋ヶ坂通2丁目	位置目印	なし	北緯	35 度 10 分 17.0 秒	東経	136 度 57 分 54.0 秒	測地系	世界測地系
事前通行規制区間指定	無	規制基準等	連続雨量 mm	時間雨量 mm	交通量	平日 11,600 台/12h	休日 9,000 台/12h	DID区間	該当	バス路線	該当	迂回路	有	緊急輸送道路区分	指定有

［点検地点位置図］※スケッチと位置を明記する





［専門技術者のコメント］
樹木の根が石積の隙間に活着し、伐採後も根が生きているため、成長し続けている。
現在はまだ石積の隆起が確認される程度（落下の恐れはない）であるが、今後の根の成長により石積の崩落の危険性があるため、継続的に点検を行う必要がある。

対応するものに○印			評価年月日
	1	対策工が必要	年 月 日
○	2	カルテ対応	2013 年 7 月 17 日
	3	対策不要	年 月 日
	4	対策完了	年 月 日

着目すべき変状	点検の時期			想定される災害形態	変状が出たときの対応
①石積のひらき幅	定期	1年に1回		石積の崩落による交通遮断	石積のひらきの進行の拡大 →応急対策及び専門技術者による詳細調査を実施する
	不定期	豪雨	豪雨時、豪雨後1週間以内		
	不定期	震度	震度4以上の地震発生後		

	点検者名	東山泰治	会社名	中央コンサルタンツ株式会社	連絡先 TEL 052-551-2541
作成年月日 2013 年 7 月 17 日 天候：（ 晴 ）	専門技術者名	小川利治	会社名	中央コンサルタンツ株式会社	連絡先 TEL 052-551-2541